

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第7週の発生動向

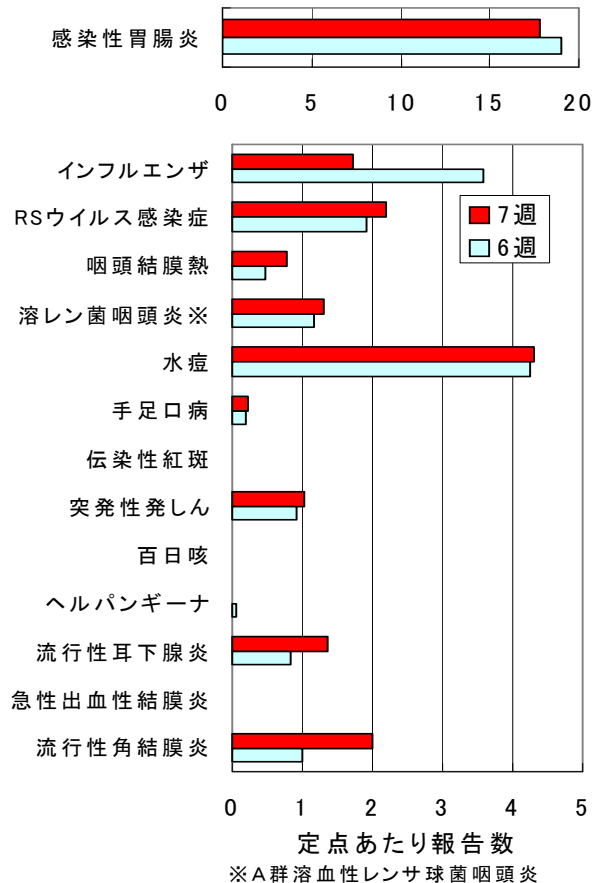
定点医療機関からの報告総数は1,159人(定点あたり32.8)で、前週比98%とほぼ横ばいであった。

前週に比べ増加した主な疾患は流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

流行性耳下腺炎の報告数は49人(1.4)で前週比163%と増加したが、例年同時期の定点あたり平均値(1.4)とほぼ同数であった。延岡(7.3)・日向(2.5)保健所からの報告が多く、延岡保健所管内では警報レベルを超えている。年齢別では2歳から7歳で全体の約8割を占めた。

RSウイルス感染症の報告数は79人(2.2)で前週比114%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(0.4)の約5倍と多い。延岡(6.5)・高鍋(5.3)・高千穂(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳以下で全体の約8割を占めた。

《前週との比較》



■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.78	日南(3.7)	1歳から3歳で全体の約7割を占めた。
感染性胃腸炎	20	17.8	小林(32.7)、日南(27.0)、 宮崎市(20.6)	1歳~6歳で全体の約6割を占めた。
水痘	7	4.3	延岡(12.0)	1歳~4歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	1.4	延岡(7.3)	2歳から7歳で全体の約8割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 1 例が日向保健所から報告された。70 歳代の女性でその他の結核（結核性胸膜炎）。胸痛がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 3 例が都城（2 例）、高鍋（1 例）保健所から報告された。
《都城保健所》・50 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の O 血清型は不明（VT1 産生）。
・20 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 091（VT1 産生）。
《高鍋保健所》・30 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 091（VT1 産生）。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国第 6 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 22.2 で、前週比 89%と減少した。今週増加した主な疾患は水痘で、減少した疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。

水痘の報告数は 4,349 人（1.4）で、前週比 112%と増加した。例年同時期の約 8 割と少ない。宮崎県（4.3）、沖縄県（3.5）、大分県（2.7）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳までが全体の約 7 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 37,844 人（12.5）で、前週比 90%と減少したが、例年同時期の約 1.6 倍と多くなっている。鹿児島県（21.3）、愛媛県（21.0）、宮崎県（19.0）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約半数を占めた。

インフルエンザの報告数は 13,479 人（2.8）で、前週比 66%と減少した。福井県（8.0）、沖縄県（5.7）、埼玉県（5.4）からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 27%、6-9 歳が 25%、10-14 歳が 18%、15-19 歳が 6%、20 歳代から 50 歳代が 22%、60 歳以上が 2%を占めた。

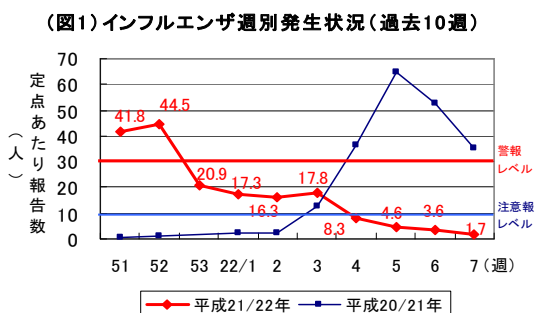
□全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 226 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 12 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 6 例、つつが虫病 5 例、テング熱 1 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 5 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 3 例、急性脳炎 4 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 13 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 4 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、風しん 2 例、麻しん 5 例

■ インフルエンザ情報《県内第7週、全国第6週（再掲）》

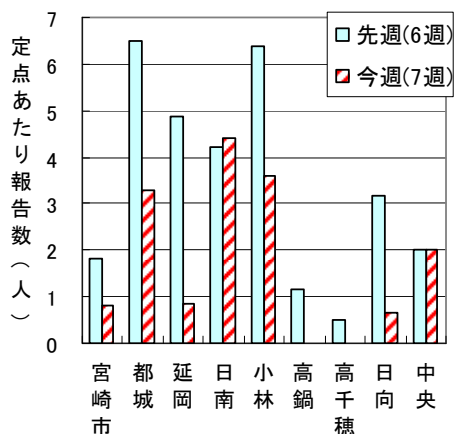
□ 県内第7週インフルエンザ発生動向

平成22年2月15日～2月21日までの1週間で101人（定点あたり1.7）の報告があり、前週比48%と減少した（図1）。日南（4.4）・小林（3.6）・都城（3.3）保健所からの報告数が多く（図2）、年齢別では5歳以下が全体の21%、6-9歳が23%、10-14歳が28%、15-19歳が3%、20歳代-50歳代が23%、60歳以上が2%を占めた（図3）。

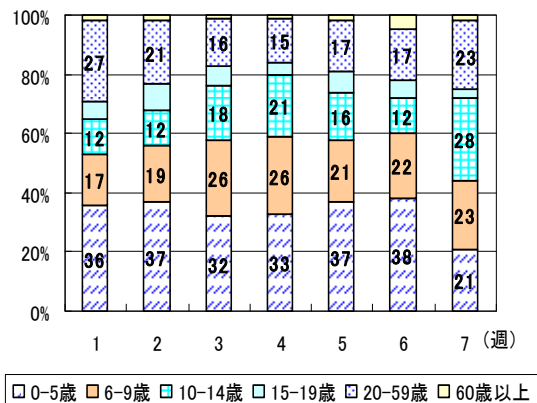


	第7週 (2/15～2/21)	累計 (21/30～22/7週)
集団発生件数	0	429
遺伝子検査陽性件数	0	411
型別	AH1亜型(ソ連型)	0
	AH3亜型(香港型)	0
	AH1pdm(新型)	0
入院患者数	0	256
重症患者数	0	15
死亡者数	0	4

(図2) インフルエンザ保健所別報告数



(図3) 年齢群別割合の推移(県内)



インフルエンザ 警報・注意報レベル状況

インフルエンザの定点あたり報告数と警報・注意報レベル発生状況

○: 警報レベル、△: 注意報レベル、- 警報・注意報レベルなし

保健所	今週 (7週)		1週前 (6週)		2週前 (5週)		3週前 (4週)		4週前 (3週)		5週前 (2週)	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
宮崎市	0.8	-	1.8	-	2.9	-	5.2	-	14.3	△	12.1	△
都城	3.3	-	6.5	-	5.9	-	10.8	△	19.9	△	21.3	△
延岡	0.9	-	4.9	-	4.9	-	6.7	-	13.4	△	19.7	△
日南	4.4	-	4.2	-	7.2	-	14.2	△	24.2	△	15.4	△
小林	3.6	-	6.4	-	9.6	-	16.0	△	28.8	△	23.6	△
高鍋	0.0	-	1.2	-	2.8	-	9.7	-	21.3	△	13.0	△
高千穂	0.0	-	0.5	-	3.5	-	2.5	-	6.5	-	13.5	△
日向	0.7	-	3.2	-	2.5	-	5.2	-	14.7	△	14.0	△
中央	2.0	-	2.0	-	3.7	-	3.0	-	16.0	△	15.0	△

□ 全国第6週インフルエンザ発生動向

平成22年2月8日～2月14日までの1週間で13,479人（2.8）の報告があり、前週比66%と減少した。福井県（8.0）、沖縄県（5.7）、埼玉県（5.4）からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の27%、6-9歳が25%、10-14歳が18%、15-19歳が6%、20歳代から50歳代が22%、60歳以上が2%を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第07週(02月15日～02月21日)

疾病名		第6週	第7週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	212	101	12	33	6	22	18			4	6
	定点あたり	3.59	1.71	0.80	3.30	0.86	4.40	3.60	0.00	0.00	0.67	2.00
RSウイルス 感染症	報告数	69	79	7	2	26	4		21	5	13	1
	定点あたり	1.92	2.19	0.78	0.33	6.50	1.33	0.00	5.25	5.00	3.25	0.50
咽頭結膜熱	報告数	17	28		5	3	11				7	2
	定点あたり	0.47	0.78	0.00	0.83	0.75	3.67	0.00	0.00	0.00	1.75	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	42	47	11	3	6	3		1	7	11	5
	定点あたり	1.17	1.31	1.22	0.50	1.50	1.00	0.00	0.25	7.00	2.75	2.50
感染性胃腸炎	報告数	685	641	185	109	35	81	98	53	5	41	34
	定点あたり	19.03	17.81	20.56	18.17	8.75	27.00	32.67	13.25	5.00	10.25	17.00
水痘	報告数	153	155	33	32	48	10	3	11	2	14	2
	定点あたり	4.25	4.31	3.67	5.33	12.00	3.33	1.00	2.75	2.00	3.50	1.00
手足口病	報告数	7	8	3	1		1		3			
	定点あたり	0.19	0.22	0.33	0.17	0.00	0.33	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.03	0.03	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	33	37	10	8	8	3	3	1		1	3
	定点あたり	0.92	1.03	1.11	1.33	2.00	1.00	1.00	0.25	0.00	0.25	1.50
百日咳	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	2										
	定点あたり	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	30	49	5	3	29		1			10	1
	定点あたり	0.83	1.36	0.56	0.50	7.25	0.00	0.33	0.00	0.00	2.50	0.50
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	6	12	6	4	2						
	定点あたり	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数										0.00	
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～7週)

2類感染症	結核	20例(1)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5例(3)			
4類感染症	つつが虫病	1例	後天性免疫不全症候群	1例	梅毒
5類感染症	急性脳炎	3例			
	麻しん	1例			

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）の予防。（2月15日～2月21日）

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）は前の週に比べ減少はしましたが、依然として流行が続いています。

この病気はウイルスや細菌などに感染することによっておこります。

二次感染を予防するためには、石けんでの手洗いが重要です。普段から調理の前や食事の前、トイレの後は石けんをよく泡立てて手指から手首までを十分に洗いましょう。石けんを使い十分にこすり洗いし、水で洗い流すことにより、ウイルスは大幅に減少します。また、便や嘔吐物を処理するときには「すぐに拭き取る」、「乾燥させない」、「消毒する」の3原則をまもりましょう。

ノロウイルスの消毒には、塩素系消毒が有効です。嘔吐物を新聞等で拭き取って、薄めた市販の塩素系漂白剤をペーパータオル等にしみこませ、できるだけ広い範囲を浸すように拭き取ります。その汚物等はビニール袋に入れて密閉し、燃えるゴミとして処理しましょう。処理時、処理後は窓を開ける等換気を十分にしましょう。また、ウイルスは熱を加えると死滅するので、カーペット等はスチームアイロン、衣類は熱湯で処理する方法もあります。